

OMUPニューズレター



発行：大阪公立大学共同出版会

2005年1月31日

第11号

OMUPのさらなる発展を

大阪女子大学学長
丸山 高司

「新しい府立大学の誕生」

今春、府立の3大学が統合して、独立法人としての新しい府立大学が発足します。今日、時代の大きなうねりの中で、日本の大学は根本的な変革を迫られています。府立の3大学も、将来の新展開を期して、統合・法人化という道を選択しました。これは、府立大学としては、前代未聞の大改革です。



もちろん、「統合」にしろ、「法人化」にしろ、私たちにとっては、まったく新しい経験です。それだけに、さまざまな不安や危惧がないわけではありません。しかし、これからも、大学はますます厳しい状況に直面していくにちがいありません。この苦境に立ち向かって、より高度の大学を作り上げようとするなら、何よりもまず、3大学の力を結集するほかありません。新生の府立大学が、大きく飛躍することを切望しています。

「大阪女子大学の場合」

大阪女子大学は、昨年、80周年を迎えました。女性にとっての高等教育機関が貧しい時代にあつて、府立の女子専門学校として出発し、戦後、

新制大学に格上げされ、大阪女子大学として再出発しました。昭和51年（1976年）に、大仙キャンパスへ移転し、今日に至っています。

今回の府大学改革に際しては、平成14年の当初、再編・統合という方針を打ち出し、『大阪府大学改革基本計画（案）』の策定に向けて、積極的に取り組みました。先生方はもとより、卒業生の皆さんも、すこぶる冷静に対処していただきました。学長職にあるものとして、あらためて感謝しています。

大阪女子大学の教育・研究の伝統が、新大学の一つの大きな活力となることを願っています。

「OMUPの更なる発展を」

かなり以前から、学術書の出版が困難な状況になっていました。私たちも、大学出版局の必要性を痛感しつつ、小規模大学であるだけに、断念するほかありませんでした。そういう中で、「大阪公立大学共同出版会」の設立は、まことに朗報でした。

すでに、4年目を経過しました。その間、着実な手法で、順調に事業を展開されてこられたということは、「ニューズレター」によっても、伺い知ることができます。役員の方々をはじめとして、関係者の皆様には、たいへんご尽力をいただいていることと思われまふ。

新大学にとって、OMUPは、教育・研究を活性化する一つの大きな要因として、今後もますます重要な役目を担うことになるにちがいありません。今回の府大学改革を機縁にして、さらに発展されることを願っています。

まだ、サロンに一度も参加したことのない方はもちろん、皆様、お誘い合わせの上ご参加ください。（新刊紹介参照）

第11回OMUPサロン 開催のお知らせ

今回は、1月に出版された大阪市立大学の北原博氏著作『ゲーテの秘密結社－啓蒙と秘教の世紀を読む－』のサロンです。私たちの知らないゲーテに出会えそうです。

会場はアサヒビールの直営店でおいしいビールが飲める上、大阪城を臨む大パノラマが広がります。テーマのゲーテにちなんで（ドイツ？）ビールを楽しみながら大いにお話を伺うことに致しましょう！

□■日時：3月25日（金）18：00～20：00

□■場所：パノラマスカイレストラン アサヒ

（地上125mからの360度パノラマ。06-6946-2595）

大阪市中央区城見1-3-7 松下IMPビル 26F

（JR環状線、京阪京橋駅徒歩10分、

地下鉄鶴見緑地線大阪ビジネスパーク駅下車すぐ）

□■会費：5千円

第10回OMUPサロン

著者は語る



『ヨーロッパの保育と保育者養成』

大阪府立大学教授 泉千勢
(泉千勢監修編訳 OMEP日本委員会訳)

この度、OMUPから泉千勢監修編訳『ヨーロッパの保育と保育者養成』を出版していただきました。訳をしたのはOMEP日本委員会の会員です。OMEP（世界幼児教育機構）は、就学前教育・保育の向上のために活動する国際組織（NGO）で、国連への幼児教育分野での提言機関として活躍しています。

原著書は “Working with young children in Europe—Provision and Staff Training—” Pamela Oberhuemer and Michaela Ulich, 1997, PCPです。著者はドイツ・バイエルン州立乳幼児教育研究所の研究員です。本書は、ドイツ政府と州政府から研究助成金を得てなされたEU 15か国の保育調査を基にまとめられた研究書です。EU全体の保育サービスの普及状況と保育者養成の現状を体系的にまとめたこのような著書は、他地域にも例がなく、貴重な文献として世界的に注目されています。

EUでこのような調査が必要になったのには理由があります。EC/EU（欧州連合）は、経済共同体をつくる過程で男女平等が問題となり、男女平等委員会を設置しました。そしてその中に「保育ネットワーク」を立ち上げ、1986年から10年かけて加盟国の保育状況を調査し、質改善の勧告をしてきました。その結果、EU全体として男女平等が進み、保育サービ

スも拡充されました。労働市場が開放され、人々の職業移動が頻繁になり、保育者の移動も増えてきました。しかし、保育サービスの形態や保育者の資格要件が各国バラバラで、それを比較対照するデータすらないという状況に、著者達は気づいたのです。それで、欧州委員会保育ネットワークの活動が終了する時期に合わせて、EU15か国の大規模な保育調査を企画したのです。1995年に現地調査を実施し、1997年に出版しました。その後EU諸国は、2006年为目标年にして、一層保育サービスの質改善に努めています。

また、OECD（経済協力開発機構）は、加盟国の保育調査をして、2001年に“Starting Strong: Early Childhood Education and Care”を出版しています。男女平等と少子化の進行により、保育サービスの普及と質改善が経済界からも注目されています。

日本は今、少子高齢化が大きな問題になっています。2003年の合計特殊出生率が1.29となり、少子化が加速的に進行しています。少子化の進行は、将来社会に大きな影響を与えます。政府は、「次世代育成支援対策推進法」を制定して、自治体と企業に子育て支援の「行動計画」を策定することを義務づけました。

「少子化対策」に力を入れていますが、本当に子ども達が幸せに育つための、質のよい保育（子育て・子育て支援）体制を整備すべきです。保育の質を規定する鍵となる要因は、保育者と子どもの比率です。日本の保育基準は世界に比べてあまりにも条件が悪すぎます。20年先の日本の若者達が、世界で対等に活躍できるのか、心細くなってきます。現在の日本の、女性・子ども達の状況を見つめなおすためにも、世界の保育に目を向ける必要を強く感じます。

(泉千勢)



第10回OMUPサロン ごほれ話

『地域情報政策と公立諸大学』

大阪府立看護大学医療技術短期大学部教授 笹山忠則



著者は語る

地域に密着する公立諸大学が、この先進情報社会の中で独自の役割を果たすためには如何なる戦略が必要だろうか。本書では地方政府の情報政策に対して公立諸大学（詳細な定義は本書を参照）の果たすべき役割を全国的に考察する。編著者自らが推薦文を書くとは聊か手前味噌で恐縮だが、各地でいま公立諸大学が公設民営化の方向で再編されようとしている現在、臆面もなく紹介するだけの価値はあると信じる。（笹山忠則）

第10回OMUPサロンは、昨年9月17日（金）に大阪府立大学社会福祉学部の泉千勢氏、大阪府立看護大学医療技術短期大学部の笹山忠則氏のお二人の著者を囲んで開催されました。メモリアル開催となった第10回サロンは、シックでレトロな「大阪ガスビル食堂」を会場に行われました。ガスビル食堂といえば、昭和8年3月に、近大大阪のシンボル御堂筋とともに誕生した由緒あるレストランです。研究著書を語り合うという、文化の香り高いOMUPサロンを演出するにふさわしい場となりました。

サロンは、まず初めに泉氏から、EUにおける保育と保育者養成についてのお話、この本の意義などをお話いただきました。少子高齢化を迎え、日本がこれから真剣に考えていかなければならない次世代育成について思いを新たにしました。

続いて笹山氏からは、まさにOMUP会員の所属する公立大学が果たすべき地域社会への役割について、中でも情報政策についてお話いただきました。

サロン第2部では、会場をレストランに移し、フランス料理のフルコースとワインに舌鼓をうちながら会話を楽しむというサロンの醍醐味を堪能しました。

OMUP新企画!

OMUPブックレット創刊
のお知らせ

OMUPブックレットいよいよスタート!!
会員の皆様のご要望に応じて
OMUPが一部出版補助!!

時々刻々と拡大、膨張する学問分野、一方では微にいり、細を穿つ解析的手法の展開に対し、研究者はともすればその視座を見失いがちです。一方、近時は「知的所有権」と称して、一時的にしても、新知見の守秘を余儀なくされる科学技術の現状といえます。この傾向は自然科学に止まらず、人文科学、社会科学の分野にも及んでいるのが今日的問題と考えます。

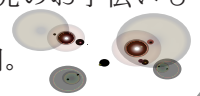
本来学問・研究は議論・考察を尽くしてその展開をするのがそのスタイル。OMUPでは議論の場としての本、「ブックレットのシリーズ」を創設することになりました。会員皆様の声を反映し、出版費用の一部助成も行います。すでに3本の企画が現在進行中です。皆様からの多くの企画をお待ちしております!!

ブックレットの概要

公開講座のテキスト、一般講義の副読本として、あるいは読書会などにご活用いただけるようにOMUPブックレットシリーズを創設することになりました。

- 体裁 A-5判、100ページ未満、500冊
- 売価 840円(本体800円)
- 制作費 25万円(出版原価30万円のうち5万円はOMUPが助成します)

- 学問分野によって右開き(縦書き)または左開き(横書き)の原稿をCDで承ります。1回の著者校正あり。
- 基本的にはすべて買い取り価格。
- 著者のお申し出によりOMUPが生協と提携して公開講座その他で販売のお手伝いもいたします。
- 表紙は共通デザインを使用。



新刊本、続々発行!

今年1月に大阪市立大学の北原博氏の著作『ゲーテの秘密結社-啓蒙と秘教の世紀を読む-』が刊行されましたが、現在、さらに2冊が刊行に向けて最終段階に入っています。

1冊目は、大阪女子大学の小股憲明氏の著作『近代日本の国民像と天皇像』です。全体で700ページ

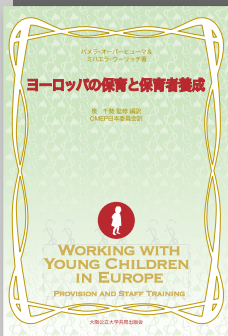
あまりの大作になっています。

2冊目は、神戸女子大学の阿部敦氏の著作『オンブズマン活動参加者の価値指向性(仮題)』です。阿部氏はOMUPからは2冊目の出版となります。本著は、同氏所属の神戸女子大学から一部助成金を得ての出版です。

いずれも楽しい内容の本が並んでいます。ご期待ください!

新刊本紹介

『ヨーロッパの保育と保育者養成』



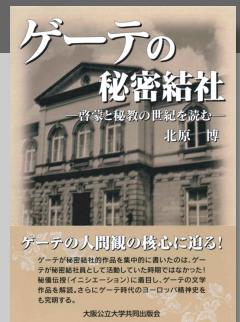
パメラ・オーバーヒューマ、
ミハエラ・ウーリッチ著
泉千勢監修
OMEP日本委員会訳

保育施設に関する詳細な情報

OMUP初の翻訳本。ヨーロッパにおける保育施設に関する詳細な情報と、保育施設で働く職員の養成課程についての研究書。

『ゲーテの秘密結社-啓蒙と秘教の世紀を読む-』

北原博著

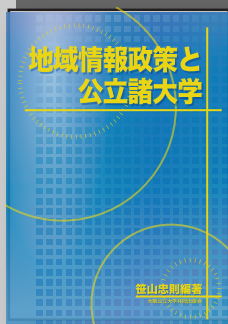


ゲーテの人間観の核心に迫る!

ゲーテが秘密結社的作品を集中的に書いたのは、ゲーテが秘密結社員として活動していた時期ではなかった!秘儀伝授に着目し、ゲーテ文学作品を解説。さらにゲーテ時代のヨーロッパ精神史をも究明する。

『地域情報政策と公立諸大学』

笹山忠則編著



地域高等教育への提言書

各地で公立諸大学が公設民営化の方向で再編されようとしている現在、地域高等教育への提言書として類書なき貴重な1冊。

『植物色素研究法』

植物色素研究会編

植物色素研究法



彩(いろどり)の学術指南書

植物色素研究会発足15周年記念出版。中堅研究者が自らの手技を、これから学ぶ若い学徒に寄せる手引き書。



「シレトーク」第3弾。今回は、理事の平澤栄次氏のこぼれ話をどうぞ。

OMUP5年目を飛躍の年に

大阪公立大学共同出版会
理事 平澤 栄次
(大阪市立大学理学研究科教授)



新年あけましておめでとうございます。OMUPの会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお慶びもうしあげます。去年は地震や台風など、災害の多い年でしたが、2005年は地球に住む全ての人々にとって輝く年になりますよう、祈らずにはおられません。

OMUPの出版も順調に推移し、また今年の4月には大阪府立の3大学が統合され、新生公立独立行政法人大阪府立大学として新たな一步を踏み出されるとお聞きしております。一方、大阪市立大学も来年4月には同様に公立独立行政法人になることが決定されています。このような法人化を機会に、OMUP会員を中心に府立大学と市立大学がまさに二人三脚で、良質な出版事業にさらに取り組んでい

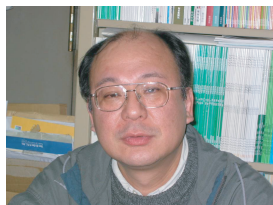
かなければなりません。

今までの学術書の出版に関する考え方としては、文科系教員では研究業績としての評価が主で、どうしても名のある出版社から出すことになっていました。また一方、理科系教員では、研究業績は査読を受ける原著論文が中心となり、本の出版は評価対象外に置かれていました。しかしながら、今後の大学の教員評価は、研究のみならず教育や地域貢献にも重点がおかれるようになりつつあります。文科系に限らず理科系教員も、在籍する大学での教育の質を高めるためにも、教科書を作ることが求められてきています。どの出版社から出したかではなく、その本でどれだけ教育に貢献できたかが今後問われていきます。

わたしの在籍する理学研究科でも独立行政法人化に伴い、中期計画(案)を作成中ですが、その中の教育の実施体制に関して「大阪公立大学共同出版会を活用しつつ、さらに教科書・参考書を出版する」と明記しています。OMUP会員の所属する、大阪府立大学・大阪市立大学の独立法人化を契機に、さらにOMUPが飛躍していくことを期待しています。

ニューフェイス紹介

大阪府立大学生協同組合
書籍部 大瀧 敏夫



昨年10月から定例常務理事会にオブザーバーとして参加いただいている大瀧さんをご紹介します。府大にみえる前も、母校市大の生協書籍部一筋という、根っからの書籍部門スペシャリストです。大学書籍についての造詣の深さは大変なもので、どんな質問にもすぐに答えが返ってくるなど、編集会議ではいつも貴重なアドバイスをいただいています。

大阪府大生協書籍部の大瀧と申します。OMUPの会議に昨年より参加させていただいております。人見知りの、ひきこもりなので、店でも大学でも皆様方にあまりお目にかかることが少ない身ですが、30年間の大学書籍部での知識が出版会に少しでもお役に立てればと、草葉の陰のような所で日々思っております。

◆◆ 会員募集 ◆◆

OMUPでは、いつでも会員を募集しています。これから本の出版をお考えの方、図書の普及活動に興味のある方などなど、ご参加お待ちしております。

《入会》 入会金:1口1万円(1口以上)
振込先:UFJ銀行中もず支店
普通 3976510
大阪公立大学共同出版会

◆◆ 編集後記 ◆◆

暖冬、暖冬と言われていたのに、お正月東京に行くと雪景色。2月に入ると今年1番の大寒波。大阪でも雪で路面が凍結し、通勤路の陸橋が封鎖となりました。それまで暖かかったので余計に寒さが身にしみます。やっぱり冬は「寒〜い」!!(mim)

《OMUP事務局》 〒599-8531 堺市学園町1-1
TEL (072)252-1161 FAX (072)254-9408
omup@w-works.jp 又は omup@plant.osakafu-u.ac.jp
<http://www.w-works.jp/omup/>